



しつけ 「躰と育ち」

校長 上 函 啓介

始まる前は長いと思うが、終わってみると短いものなあに？それは夏休み。誰もが感じるのだと思います。久しぶりに全員が顔を合わせた第2学期始業式。再び学校に子どもたちの声が戻ってきました。2学期も子どもたちにとって充実した時間が送れるよう職員一同全力で支援してまいります。

さて、過日第1回学校評議員連絡会、並びに学校関係者評価委員会が行われました。協議では、「自己肯定感を高める上手なほめ方」についてご意見を伺いました。ここで評議員の皆様の主なご意見を紹介させていただきます。

- ・イスラエルの学校では、人に喜んでもらえることをすることを子どもに植えつけてきた。
⇒ 人間の自信につながる ⇒ 人に喜んでもらえる喜びを学ぶ
- ・去年の誕生日に、児童が自発的にお祝いをしてくれた。先生が喜んでもらえることを考え、喜んでもらえた達成感を感じ、自己肯定感が高まったようだ。
- ・生徒指導を充実、発展させることが大切である。人として、日常生活の中で人のために役立つことを学び、自信をもつことができる。
- ・みんなの前で恥をかきたくはないとみんなが思っているはずである。叱るときは一人の時に、ほめるときはみんなの前でということ意識してほしい。「ずっと見ていたよ」ということをわからせてあげることが大切
- ・行動を見て、感謝の気持ちを笑顔で応えてあげることが大切。
- ・中学生の時、放課後呼ばれてよく掃除をさせられた。きれいにすると、先生がほめてくれた。指導を見届け、評価することが大切だと考える。
- ・子どもの頃、先生の採点間違い（×なのに○になっていたこと）を正直に言ったらすごくほめられた。
- ・人生の中でほとんどほめられたことはない。もっとほめてもらえていたら違う人格になったかもしれない。学校教育の中で人をほめて伸ばすことは大切である。また、地域でも地域の活動をとおして、子どもと一緒に努力し、喜びを分かち合い、評価し、地域で子どもを育てるといふ、地域の意識改革が必要である。
- ・学校は、これからの人生をどう生きていくかを教えてあげる場所。これだったら自分は自信があるということを見つける場所。人間には個性がある。伸びる部分を見つけ、教師がほめることが大切である。
- ・子どもたちは非常に疲れているように見える。受験に向けてのプレッシャーが精神的に疲れている生徒がいる。親という時間より、学校や塾にいる時間の方が長い。家庭でも、コミュニケーションの時間を十分にとり、躰やマナーを確実に身につけさせてほしい。

たくさんのご意見をいただきました。今後の指導に生かしていきたいと思っております。

その中で、ある委員さんからこんな話題が出されました。「躰というものは、何歳まで必要でしょうか」。さらにこんなご意見もありました。「躰と同時に『育ち』についても一考の余地があるのではないかと」。

さて、皆さんはどのくらいまでとお考えでしょうか。「躰」という言葉を辞書で引くと「礼儀作法を身に付けさせること」、「社会生活に適応するために望ましい生活習慣を身につけさせること。基本的な生活習慣のしつけが中心になるが、成長するにつれて、家庭、学校、社会などの場における行動の仕方へと、しつけの内容が拡大していく。」などがあります。前者は、いわゆる「躰」の狭義の解釈。後者はもう少し広い解釈ということになるでしょうか。また、ネットで検索していたところ、この命題に答えるようなものがありました。「五歳から七歳の子供たちは、いよいよ仕付け糸をはずしはじめる年齢にあたります。それまでは親が外側から枠組みを与えて、子どもに行為や生活習慣を形作らせていたのですが、いよいよその枠をはずして、子どもが自分の力で自らの行為や生活習慣を生み出し始める時期に入ります。仕付け糸をはずすことは、言うまでもなく、子どもを本人の自律にゆだねることです。しつけとは、もともと自律に向けてのしつけなのです。外からの強制によって社会の決まりをあてがうことよりも、むしろそうした外的強制を取り外すことを目指すものです。しつけが不要になるようにしつける、といってもよいかもしれません。」これは、元京都大学教授の岡本夏木先生の文章です。

いかがでしょうか。個人的には、親子である以上「躰」は一生のものだと思っています。また、「躰」には年相応の「躰のようなもの」があるとも思っています。やや意味を異にするかもしれませんが、子どもの生き方についてのアドバイスなども、その一部のような気がします。そしてこれは生涯終わるものではないと思っています。人生に迷いはつきものです。迷った時は、ほんの少し舵を切ってやることも必要ではないでしょうか。

そしてもう一つの命題、「育ち」についてです。「育ちがよい」「育ちがわるい」という言葉がよく使われますが、育ちの良し悪しは、自分では気が付かないものです。周囲からの評価が中心の言葉であるともいえます。人が「育ち」について感じる尺度には、「言葉遣い」や「箸の持ち方」などのいわゆる「行儀」といわれるもの、「周囲への配慮」や「相手によって態度が変わる」といった、人とのコミュニケーションによるものなど、千差万別です。

さて、皆さんのお考えはどうでしょうか。様々な考えはあると思いますが、私は、「育ち」の尺度の大本となるのは「親からの愛情」「良質な人間関係」「生きている満足感」ではないかと思っています。

ネットに「育ちが悪い人の14の特徴的行動」というものが載っていました。早速自分の評価をしてみたところ、該当項目が2つ、怪しい項目が5つ、残りの7つは、まあ大丈夫かなという結果でした。しかし、これはあくまでも自分を自分で評価したものであり、周囲の人が私をどのように評価をするかはわかりません。

学校教育目標 **輝く命 生きる力**

目指す生徒像
目指す教師像
目指す学校像

気迫ある生徒
気概に満ちた教師
活気ある学校

第3回さいたま市ビブリオバトル 7月29日(金)

さいたま市中央図書館を会場に「第3回さいたま市ビブリオバトル」が開催されました。本校の予選を勝ち抜いた3年生の南和花さん、新田晃志郎くんの2名が参加し、南さんが優勝しました。2人の活躍の様子はテレ玉などでも放映されました。また、9月17日(土)開催の東中発表会でも再度校内のビブリオバトルを行いますので、みなさんご来校よろしくお願いたします。



【満面の笑みの出場者の2人】

小・中一貫いじめ撲滅会議 7月25日(月)

東中図書室を会場に、本校生徒会役員代表及び学級委員長、大宮小学校・大宮東小学校の児童会代表が集まり、「小・中一貫いじめ撲滅会議」が開催されました。生徒会代表 3年生 吉崎萌々子さんの感想より「平成28年度小・中一貫いじめ撲滅会議議長として、参加させていただきました。議長を務めるのは初めてだったので緊張してスムーズに会議を進めることができませんでしたが、貴重な経験をすることができました。今回の会議は、大宮東中、大宮小、大宮東小の三校で行われました。小学生と情報・意見を交換する場はあまりないので、とても参考になりました。そして、大宮東中学校区では「相談しやすい環境をつくる」ことが決まりました。具体的には、レクなどで絆を深め、相談のできる相手を作ったり、学校全体でいじめを許さない雰囲気を作ったりすることを考えています。今回学んだことや決まったことを今後の会議や生徒会活動に活かしていきたいと思ひます。」



【代表児童・生徒が真剣に協議】

さいたま市子ども会議 8月5日(金)

先の「小中一貫いじめ撲滅会議」を受けて、さいたま市教育研究所を会場に「さいたま市子ども会議」が開催されました。本校からは3年生の吉崎萌々子さん、2年生の三枝浩乃さんが参加し、他校生といじめ撲滅に向けた取組について意見交換などを行いました。2年生 三枝さんの感想より「今回、さいたま市子ども会議に参加したことで、他のたくさんの中学校で実施していることや、問題点について知ることができました。また、東中でも実施したいことがあったので、忘れずに生かしていきたいと思ひます。」



【他校の意見にも注目】

さいたま市いじめ防止シンポジウム 8月24日(水)

さいたま市文化センターを会場に「さいたま市いじめ防止シンポジウム」が開催されました。本校からは、生徒会代表として3年生 中原綾美さんと2年生 長瀬陽さんが参加しました。

中原さんの感想より「今回、取組を発表した2ブロック計6校の小中学校では東中で行っていないことも小中一貫で行っていました。一番印象に残ったことは『ムービー』です。いじめを止めること、起こさせないようなムービーを作っていて私にはそんな発想がなかったので真似をしたいなと思ひました。生徒会での任期は残り少ないですが、このシンポジウムで学んだことを生かして、生徒会としてまた一人の東中生としていじめ防止に向けて活動していきたいと思ひます。」長瀬さんの感想より「いじめを絶対に許してはいけないということを改めて実感しました。また、加害者のみならず、傍観者を作らない取組もしていきたいです。」



【いじめ防止に向けて】

中学生自転車安全運転シンポジウム 8月26日(金)

大宮警察署を会場に「中学生自転車安全運転シンポジウム」が開催され、3年生大塚朝陽君と加藤由香さんが参加し、正しい自転車の乗り方などを学びました。加藤さんの感想より「私は普段自転車をよく利用しており、その便利さを実感しています。一方で、事故の加害者にもなってしまう恐ろしさも知りました。『人に優しい安全運転』を心掛けて利用したいです。」大塚君の感想より「自転車による交通事故の約8割から9割の原因が交通ルール違反ということを知り、ルールを守る大切さを実感しました。今回学んだことを学校全体に広げられたらいいなと思ひます。」



【大宮警察署にて】

さいたま市英語弁論・暗唱大会 8月26日(金)

馬宮コミュニティーセンターにて、「さいたま市英語弁論・暗唱大会 Aブロック大会」が開催され、本校からは、2年「暗唱の部」に白井舞乙さん、川井康平君、3年「弁論の部」に中原綾美さん、駒崎千尋さんの4人が出場しました。4人とも夏休み中に学校で何日も発音や表現練習を行い、当日はそれぞれがベストパフォーマンスを披露してくれました。2年生の2人が8月31日に行われる中央大会に駒を進めました。東中発表会でも披露してもらいます。以下参加生徒の感想を紹介します。

「緊張しましたが練習の成果が結果に出てよかったです。他校生の発表を聞くこともいい勉強になりました。(白井)」
「本番はとても緊張しましたが練習の成果を出し切ることができ、4位でさいたま市の本選に進むことができました。本選も頑張ります。(川井)」
「入賞はできなかったけれど、それ以上に色々なことを得ることができました。(中原)」
「不安なこともありましたが、スピーチを楽しむことができました。約1か月半練習したことが発揮できて、とても良い経験になりました。(駒崎)」



【暗唱の部・入賞者の2人】

海外派遣帰国報告 3年4組 南 和花

さいたま市中学生海外派遣事業に、本校から3年生の南和花さんが参加し、8月3日から8月12日までニュージーランド・ハミルトンにてホームステイをしてきました。以下生徒の感想を紹介します。

「私が今回この事業に参加できて一番良かったことは、自分の英語のコミュニケーション能力を高められたことです。英語しか使えない生活は不安でいっぱいでしたが、優しいホストファミリーに助けられ、日が経つにつれてたくさん会話ができるようになりました。また、海外派遣の志望理由の一つに『剣道という日本の武道を広めたい』というものがありませんでしたが、現地で剣道を披露することができてよかったです。一生忘れられない素晴らしい経験をすることができました。ありがとうございました。」

部活動等の記録

女子バスケットボール部 平成28年度学校総合体育大会 第3位

2回戦 対鴻巣吹上中 (63-46)、3回戦 対上尾大石中 (75-32)

4回戦 対戸田笹目中 (74-59)、決勝リーグ① 対埼玉栄中 (37-56)

決勝リーグ② 対春日部豊野中 (59-69)、決勝リーグ③ 対所沢山口中 (46-41)

さいたま市秋季 Jr 大会 優勝 1回戦 対常盤中 (140-16) 2回戦 対大宮西中 (150-12)

3回戦 対大谷中 (135-13) 4回戦 対与野南中 (107-26)

準決勝 対第二東中 (85-22) 決勝 対大原中 (99-42)

女子卓球部 平成28年度学校総合体育大会 団体戦 1回戦 対深谷南中 敗退

個人戦シングルス 富井 2回戦敗退 ダブルス木村・関根ペア 3回戦敗退

女子ソフトテニス部 平成28年度学校総合体育大会団体戦 2回戦敗退 個人戦山本・細井ペア 1回戦敗退

サッカー部 さいたま市北部地区大会 Bブロック優勝

女子バレーボール部 さいたま市夏季交流戦 対南浦和中 (勝)、対田島中 (敗)、対与野西中 (敗)

野球部 さいたま市夏季体育大会 2回戦 対東浦和中 (4-11敗)

男子バスケットボール部 さいたま市秋季 Jr 大会 1回戦 対片柳中 (48-45 勝)

2回戦 対大谷中 (65-86 敗)

吹奏楽部 第57回埼玉県吹奏楽コンクール地区大会中学校Bの部 銀賞

美術部 第32回さいたま市中学校美術部展

優秀賞 3年生 中原 綾美、和泉 向日葵 2年生 白井 舞乙

佳作 3年生 折原 小葉留、新田 晃志郎

2年生 長谷川 聖華、谷田部 愛理、鈴木 佳乃、樋口 百大、小林 菜々海

さいたま市英語弁論・暗唱大会 2年暗唱の部 第2位 白井 舞乙 第4位 川井 康平